

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 11月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105115
法人名	有限会社 鹿児島メディカル
事業所名	<u>グループホームあらた</u>
所在地	鹿児島市荒田一丁目51-14 (電話) 099-252-2561
自己評価作成日	平成 28年 9月 15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者の思い、意見、意思決定を尊重するパーソン・センタードケアを目指し、その人らしい暮らしを大切にしている。
- ・利用者の健康管理は予防の視点を大切に取り組んでいる。
(例えば、食後3回の口腔ケアなど)
- ・利用者の暮らしを支える環境として家族の力を積極的に受け入れている。(家族の面会、行事などの参加率も高い)
- ・ケアの質向上に不可欠である外部研修に職員は交代で参加。内部研修は年間計画を立て、職員が交代で資料を準備し講師も兼ねる。認知症について深く理解し、BPSD(心理、行動障害)を発症しないケアを実践している。
- ・地域との連携は小学校、地域住民などへ認知症理解の普及活動を継続的に実施し信頼、協力関係が構築されている。防災害時など「地域の力」を得て強固な緊急連絡体制が確立されている。
- ・運営推進会議には地域代表、消防署、交番所、長寿安心相談センター、家族代表など幅広い方々の参加が得られ、活発な意見交換行われている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは、公園や商店街、小・中学校・大学・医療機関等のある市街地に位置している。協力医療機関との連携は密に図られ、利用者の特に予防に主眼を置いた健康管理と安全確保に重点を置いて、日常のケアの充実に管理者と職員が一体となって取り組んでおり、ご家族からの信頼も厚いものがある。

○地域との交流を大切にし、町内会に加入して行事や清掃活動への参加のほか、地域住民と共に認知症理解推進活動を展開している。また、ボランティアや実習生の受入れ、小学生や幼稚園児・保育園児との交流も盛んである。

○利用者やご家族の思いや意見を日常的に把握できるように努め、日々の申し送り時や業務日誌の活用で情報共有を図り、ミーティング等で話し合い、ケアに具体的に反映している。ホームの夏祭りや敬老会、忘年会時の家族会などへのご家族の参加も非常に多く、職員とご家族が利用者のより良い暮らしの実現に努めている。

○利用者の食事への楽しみを充実させるために細かな配慮も行っている。献立・味付け・調理方法等を職員と利用者が楽しく食事できるように工夫を重ねている。年に数回は季節に合った食事やおやつを提供、バイキング、誕生会等の特別食、家族も一緒に食事会や外食、弁当持参の花見なども企画している。

○ホーム内外の研修が充実しており、内部の研修では年間計画に沿って、職員が交代で講師を務め、資料も研修テーマに合わせて準備するなど、熱心に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域のつながりを大切にする意義を共有できるよう、毎朝の朝礼では職員全員で理念の唱和を行っており、管理者と職員は理念を共有し、日々のケアの実践に繋げることができている。	法人全体及びホームの理念を掲げ、これらを基に年間目標を設定して、地域とのつながりを大切にしてその人らしく暮らせるように日々のケアに取り組んでいる。理念は掲示して朝礼での唱和により共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の小学生との交流や、幼稚園・保育園の子ども達との交流も開設時より継続されている。地域のボランティアの方や、交番・消防・町内会や地域住民との連携も取れ、地域の一員として積極的な交流に取り組んでいる。	町内会に加入して清掃活動や行事に参加している。ホームの夏祭りや敬老会等には地域の人々の来訪もあり、防災活動でも地域住民と連携している。また、幼稚園や保育園児・小学生との交流のほか、実習生やボランティアの受入、地域住民への認知症の理解推進の取り組みなど、地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	校区の小学校や地域住民に「認知症サポーター養成講座」を開催し、事業所の力を活かす活動を行っている。地域の福祉委員として、地域と連携し、地域貢献へ取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の状況や、サービスや行事内容、インシデントの報告などを行い、地域の方々やご家族からの貴重な意見をいただき、サービスの向上に活かす事ができている。運営推進会議の内容は議事録として回覧し、職員全体で把握する事ができている。	家族や民生委員、地域住民・消防・警察・地域包括センターの職員等関係者が参加し、毎回テーマを設定して定期的に開催されている。ホームの現況報告や行事・事故・問題点等について意見交換が行われている。また、会議では地域との情報共有も図られて具体的にサービス向上に活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からの介護相談員を受け入れたり、事業所の運営に関する内容や、運営規定の改正、自己・外部評価を提出するなど、市との密な連携を図り協力関係を築いている。	介護相談員の受入れを行い、市担当者には訪問や電話での、入退所の手続・認定更新の手続等の相談に助言・対応して頂くなどの連携を図りサービス向上に取り組んでいる。また、市主催の研修会や県のグループホーム協議会に積極的に参加して意見交換も頻繁に行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束から及ぼす影響、利用者の尊厳を内・外部研修により全職員が理解できるよう情報共有し、開設以来身体拘束ゼロを継続している。身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1度開催し、議事録の回覧、ミーティングでの発表を行い全職員への意識定着、向上を図っている。	居室や玄関等の施錠は原則として行わないケアに取り組み、利用者の状態や行動を把握し、外出時は職員が付き添うようにしている。身体拘束廃止委員会の内容は職員で共有し、言葉による行動制限を始めとする身体拘束や高齢者虐待に関する勉強会、小テストなども実施して、職員の理解を深めケアへの反映を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催し、議事録の回覧、ミーティングでの発表を行い、全職員への意識定着、向上を図っている。また、内・外部研修等により全職員が高齢者虐待についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度を利用される対象者はいないが、内・外部研修を通して権利擁護が利用者中心のケアにつながる事を職員は理解する事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書を重視し、医療連携体制や料金支払い方法など十分な説明を行っている。契約内容を利用者と家族が相互に理解、納得し、同意を得た上で契約の締結に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	相談窓口を設け、利用者と家族が気軽に意見を書けるようご意見箱を設置している。2か月毎に開催される運営推進会議には、家族にも毎回参加していただき、意見を運営に反映させている。	利用者の思いや意見は日常の会話や見守り、利用者アンケートから、ご家族とは運営推進会議や来訪時の対話、忘年会時の家族会等で把握に努めている。内容は業務日誌等で全職員が共有を図り、必要な場合は申し送りやケア検討会等で話し合い、速やかに本人や家族に報告してサービスに具体的に反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月開催している全体ミーティング、ケア検討会で職員一人ひとりの意見を述べられる環境を作っている。運営側と職員が一体となり職員の声が反映される環境が整えられている。	管理者自身が日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを密にしている。毎月の全体ミーティング及びケア検討会等を通じて、職員から業務に関する意見や提案も聞き取り、働きやすい環境づくりや業務改善、サービス向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業年数に応じた昇給、資格手当など職員の向上心に繋げている。定時での職務終了、有給休暇も無理なく取得できる環境にあり、働きやすい環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成担当者により新人教育、フォローアップ研修など段階に応じた教育、研修を実施している。また、内部・外部研修に参加した報告書を職員全体で回覧し幅広い知識の習得や向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協議会に加入し、他事業所との意見や情報の交換を行いホームの環境の改善、ケアの質向上へと繋げている。また、実習生の受け入れを行い、実習生の気付きもケアの質向上へと繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居される以前に利用されていた事業所からの情報取得をはじめ、家族へは生活歴などに関するアセスメントシートへの記入を依頼し、本人が必要としている支援、不安に向き合い、安心してサービスを受けていただけるよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービス利用前に十分な面談を行い、家族の抱える不安や要望に真摯になって向き合っていくよう努めている。また、入居後も家族との連絡を密にして信頼関係の向上を図っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス利用開始前に面談を行い、家族の不安や要望を伺い、最初の段階で必要としている支援を見極め「その人らしさ」を大切にQOLの向上に繋がるサービス提供を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の大先輩であることを念頭に置き、昔の知恵や知識を教えていただくなど、利用者から学ぶ姿勢を忘れず利用者と職員が共に過ごし支え合う関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が協力して本人の安心できる生活が送れるよう、こまめな近況報告を行ったり、来訪しやすい環境を作るなど、本人の笑顔を一緒に喜び合えるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みのある地域の友人、知人が気軽に来訪できる環境づくりや住み慣れた地域への散歩やドライブなど馴染みのある人や場所との関係継続への支援ができています。	入所時の聞き取りやご家族の来訪時に利用前の情報を把握し、馴染みの美容室や墓参り、近隣へのドライブや散歩、ご家族との外出や外食等を可能な限り支援している。また、電話や手紙の取り次ぎと共に、家族や友人・知人の来訪時にはゆっくりと過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共に助け合い話題を通して笑いあえる環境づくりを大切にしている。また、個々に応じたコミュニケーションを工夫し、利用者同士の関係性の向上に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は退居され、病院や別の施設にて生活されている元利用者の許を、職員・利用者でお見舞いに出掛けている。また、家族と連絡を取り、現在抱えている不安や悩みなどの相談を受けるなどのアフターフォローに努め、利用契約終了後も関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケア検討会では一人ひとりのその人らしい暮らしの実現のため、分析・検討を繰り返し行っている。日常会話やアンケート等で、利用者の暮らしに対する希望・要望を聞き取り、思いを言葉にできない利用者へも表情やサインを読み取り、本人本位の支援へ繋げている。	利用開始時の本人・家族からの聞き取りや、日常の言葉や表情・所作、また、アンケートから思いや意向の把握に努めている。ミーティングやきめ細かく記録したアセスメントシートや業務日誌で共有を図り、家族とも相談しながら最良の支援になるように努力を重ねている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にアセスメントシート（センター方式）を記入していただき、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の暮らしや心身状態を記録する事で職員全体が現状を把握する事ができている。心身状態の変化がある時は観察シートを用いて細かい観察、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催されるケア検討会、利用者ごとに定期的に行われているサービス担当者会議、家族との密な連絡を通して利用者本位の現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、毎月のケア検討会や定期的な担当者会議等で利用者の状態や意向・希望を共有し、利用者本位のわかりやすく詳細なものが作成されている。ケアの経過は介護サービス実施記録に記述され、定期的に評価して、状態の変化に対応した話し合いを基に、利用者がよりよく暮らすために適切に見直しを行い修正している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子やサービス内容、健康状態などを個別に記録し、職員間で情報共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのニーズを常に検討し、他科受診や往診、マッサージ利用、訪問理容などを利用していただけるよう支援し、その時々ニーズに対応する事ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番、民生委員、町内会や地域の子も達などの訪問があり、利用者と馴染みの関係を築くことで安全で楽しい暮らしができる環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診が継続的に利用できている。また専門医を利用するときも利用者、家族の希望を重視し、適正で質の高い医療を受けることができるよう支援している。	利用前の受診状況の十分な把握により、本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を適切に支援している。専門医の受診は原則としてご家族にお願いしている。また、ホーム及び協力医の看護師による日々の健康管理もなされ、医師やご家族とも適切に情報を交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム内に看護師を配置、協力医の看護師の訪問もあり、医療面、予防の視点での看護師の役割が機能している。介護面でも看護師の専門性が発揮され介護職との連携も良好。日常の健康管理も徹底している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の適切な対応が図られ、入院中職員が見舞いを兼ねて訪ね、家族や病院関係者から情報を得ながら早期退院ができるよう尽力している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携加算に基づき重度化看取り指針を定め、サービス開始時に本人・家族に説明、同意を得ている。医療ニーズが高まった時は、主治医により家族への説明があり、密な情報を共有できる体制が確立されている。</p>	<p>重度化や終末期のケアについては、入居時に指針を基に、本人やご家族に適切に説明し同意を得ている。また、様々な変化の都度十分に話し合いその意向を最大限大切にしている。医師との連携は密にして、緊急時には迅速に必要な支援を実施できるように、職員への研修も充実させるなど体制を整えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ホームに設置してあるAEDの取り扱いに関する研修を外部業者へ委託し、定期的実施している。また、急変時などの対応は適時看護師からの専門的指導も受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震に備えて毎月防災訓練を各階で実施。年に2回消防署の協力を得て、昼・夜を想定して防災訓練を実施している。地域や家族の協力を得て、火災通報体制など地域力活用の体制も整っている。</p>	<p>年2回の定期的な消防署の指導訓練の他、様々な災害を想定した自主訓練を毎月行っている。訓練には地域住民やご家族の協力も得られている。スプリンクラーや自動通報装置等の設置、食料・水・防災頭巾等の備えも問題なく、地域住民との連携も十分に図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した上で、誇りやプライバシーに配慮した声かけ、対応に努めている。サービスを提供する上で「プライバシー保護と接遇について」の内部研修を行っている。	接遇や個人情報保護等の研修の充実も図り、利用者の人格を尊重し、日常の様々なケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、ミーティング等を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。また個人記録の保管や居室の保護などにも尊厳やプライバシーの確保に徹底した配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員との信頼関係を構築し、利用者が自由に表現できるようにしている。また、自分の言葉で表現できない方へは「サイン・シグナル」を感じ取り、自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな生活の流れはあるが、利用者一人ひとりのその人らしい生活を大切にしている。また利用者の希望に沿った暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	日々の身だしなみは、利用者と職員で共に行っている。出張理容サービスや美容学校の学生ボランティアによる利用者へのヘアメイクやお化粧のサービス等、おしゃれを楽しめる環境をつくり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみの一つである食事に食べたいものを取り入れることができるよう、アンケートの結果や旬の食材を献立に反映させている。一人ひとりの好き嫌いも考慮し、食材を工夫している。利用者と職員が一緒にテーブルで食事をし、準備・片付けは無理のない範囲で行っている。	アンケートや会話を通じて好みをくみ取るよう努め、旬の食材の活用のほか、食卓の準備や片づけ等も一緒に行うことで食への興味を持って頂くようにしている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとられている。また、好みや健康状態に応じた調理方法にも対応し、年に数回は季節に合った食事やおやつを提供、バイキング、誕生会等の特別食、家族も一緒に食事会や外食、弁当持参の花見なども企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録し、栄養バランスの把握、個別に必要な支援をしている。水分量のすすまない利用者へは、糖質や塩分等を考慮して、嗜好品を提供し十分な水分摂取をしていただくよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの徹底、2ヶ月に1回、歯科衛生士による口腔内の観察・確認を行い、記録に残し、職員全体で把握し、個々に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎月のケア検討会などで各利用者の自立に向けた排泄支援の検討を行い、排泄パターン、習慣を活かし支援の工夫をしている。オムツ使用が減ったことで、皮膚トラブルの回避に繋ぐこともできている。	ご家族からの情報も参考に、本人の自尊心にも配慮して、ケア検討会で個々に応じた声かけや対応を十分に検討して支援に努めている。利用者の様子観察や排泄チェック表も活用してパターンを把握し、昼間はトイレ誘導を基本にして羞恥心・不安軽減に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの便秘の原因を看護師と共に検討し、個々に応じた予防（水分や乳製品、食物繊維の多い食材の摂取）を行い、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者一人ひとりに確認を取りながら、希望・タイミングに合わせて入浴をしていただけるよう支援を行っている。	利用者の健康状態や体調、安全面に十分配慮して、本人の好みや習慣に沿って入浴が楽しめるようにタイミングの良い支援に努めている。また、利用者の状態に応じて清拭や足浴・シャワー浴などへ切り替えている。入浴を拒否されるような場合には、時間をかけてゆっくり話を交わすなどの対応を心掛けると共に、ケア検討会でも利用者本位の支援を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、昼寝をされる方への支援、夜間の入床時間も個々に応じた支援を行っている。また、安眠できるように、リネン・室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康記録ファイルには薬剤の情報を添付、その都度更新し、情報共有の徹底を行っている。また、提携の医師や看護師、薬剤師との連携も密に取りながら、利用者の症状変化への確認にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、個性を把握し、個別で力を活かせる支援を行っている。楽しく家事やレクリエーションに参加でき、気分転換が図れるよう環境をつくっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者一人ひとりの希望を聞きながら、近隣の公園や地域周辺の散歩、公用車でのドライブ等を行っている。家族との外出や年間の行事を通して、家族や地域の協力を得ながら外出支援を行っている。	利用者の外出先の好みについては入所時に聞き取り、天候や健康状態を見ながら、散歩や買い物・ドライブ等に出かけている。また、年間の行事予定にも沿って、ご家族の協力も得ながら地域の行事や季節の花見、外食などに出かけている。ご家族と一緒に墓参りや自宅への外出・外泊など、外出が楽しみになるよう適切に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に応じ、家族と相談しながら本人が支払いができるよう支援を行っている。また、お金の紛失しないよう配慮して見守りを行い、預かり金等、金銭面の管理は徹底して行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話や家族への電話はいつでも利用できる環境にある。携帯電話を持っている利用者へはいつでも電話がかけられるよう、充電の確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るくテーブルには季節の花が飾っており、季節を感じる空間となっている。常に清潔にした上で、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激に対して、職員は、理解し、検討した上で、居心地よく過ごせる環境づくりをつくっている。	共用の空間は明るく、季節の花が飾られ、室温や湿度、清潔感に十分配慮がなされ、畳のスペースやソファも置かれてゆったりとくつろげる雰囲気になっている。壁には手作りの季節感ある絵や貼り絵、それに行事の写真などが飾られている。また、利用者にとって不快に感じる音や匂いなどもなく、職員と利用者が気楽に会話ができる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が独りになりたい時には、ゆっくりと居室で過ごせるよう環境をつくり、利用者同士で会話できるソファや畳のスペースがあり、楽しくコミュニケーションを図れるよう工夫している。また、当ホームで飼っている猫がいて、その仕草や触れあいを楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、利用者を使い慣れた馴染みの物、テレビや椅子を居室に配置し、家族の写真等の装飾品を居室に置くことで、安心して居心地よく過ごせるように工夫している。	各居室にはベッド及びエアコン、整理ダンスが備え付けられている。ご家族とも相談して利用者個々の希望や状況に応じてテレビや写真、ダンス、仏壇、椅子、テーブル、時計など馴染みのあるものを持ち込んで頂き居心地のよい環境になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室の場所等を分かりやすく表示している。自分の居室が分かるように表札を掛けている。また、必要な所や利用者の状態により、居室にも手すりを設置し、安心・安全な暮らしを送ることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域のつながりを大切にする意義を共有できるよう、毎朝の朝礼では職員全員で理念の唱和を行っており、管理者と職員は理念を共有し、日々のケアの実践に繋げることができている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の小学生との交流や、幼稚園・保育園の子ども達との交流も開設時より継続されている。 地域のボランティアの方や、交番・消防・町内会や地域住民との連携も取れ、地域の一員として積極的な交流に取り組んでいる。		
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	校区の小学校や地域住民に「認知症サポーター養成講座」を開催し、事業所の力を活かす活動を行っている。地域の福祉委員として、地域と連携し、地域貢献へ取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日々の状況や、サービスや行事内容、インシデントの報告などを行い、地域の方々やご家族からの貴重な意見をいただき、サービスの向上に活かす事ができている。 運営推進会議の内容は議事録として回覧し、職員全体で把握する事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市からの介護相談員を受け入れたり、事業所の運営に関する内容や、運営規定の改正、自己・外部評価を提出するなど、市との密な連携を図り協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束から及ぼす影響、利用者の尊厳を内・外部研修により全職員が理解できるよう情報共有し、開設以来身体拘束ゼロを継続している。身体拘束廃止委員会を2ヶ月に1度開催し、議事録の回覧、ミーティングでの発表を行い全職員への意識定着、向上を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止委員会を開催し、議事録の回覧、ミーティングでの発表を行い、全職員への意識定着、向上を図っている。また、内・外部研修等により全職員が高齢者虐待についての知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、制度を利用される対象者はいないが、内・外部研修を通して権利擁護が利用者中心のケアにつながる事を職員は理解する事ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書を重視し、医療連携体制や料金支払い方法など十分な説明を行っている。契約内容を利用者と家族が相互に理解、納得し、同意を得た上で契約の締結に至っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口を設け、利用者と家族が気軽に意見を書けるようご意見箱を設置している。2か月毎に開催される運営推進会議には、家族にも毎回参加していただき、意見を運営に反映させている。</p>		
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月開催している全体ミーティング、ケア検討会で職員一人ひとりの意見を述べられる環境を作っている。運営側と職員が一体となり職員の声が反映される環境が整えられている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業年数に応じた昇給、資格手当など職員の向上心に繋げている。定時での職務終了、有給休暇も無理なく取得できる環境にあり、働きやすい環境の整備に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人材育成担当者により新人教育、フォローアップ研修など段階に応じた教育、研修を実施している。また、内部・外部研修に参加した報告書を職員全体で回覧し幅広い知識の習得や向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協議会に加入し、他事業所との意見や情報の交換を行いホームの環境の改善、ケアの質向上へと繋げている。また、実習生の受け入れを行い、実習生の気付きもケアの質向上へと繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される以前に利用されていた事業所からの情報取得をはじめ、家族へは生活歴などに関するアセスメントシートへの記入を依頼し、本人が必要としている支援、不安に向き合い、安心してサービスを受けていただけよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に十分な面談を行い、家族の抱える不安や要望に真摯になって向き合っていくよう努めている。また、入居後も家族との連絡を密にして信頼関係の向上を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に面談を行い、家族の不安や要望を伺い、最初の段階で必要としている支援を見極め「その人らしさ」を大切にQOLの向上に繋がるサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の大先輩であることを念頭に置き、昔の知恵や知識を教えていただくなど、利用者から学ぶ姿勢を忘れず利用者と職員が共に過ごし支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員が協力して本人の安心できる生活が送れるよう、こまめな近況報告を行ったり、来訪しやすい環境を作るなど、本人の笑顔と一緒に喜び合えるような関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みのある地域の友人、知人が気軽に来訪できる環境づくりや住み慣れた地域への散歩やドライブなど馴染みのある人や場所との関係継続への支援ができています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が共に助け合い話題を通して笑いあえる環境づくりを大切にしている。また、個々に応じたコミュニケーションを工夫し、利用者同士の関係性の向上に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は退居され、病院や別の施設にて生活されている元利用者の許を、職員・利用者でお見舞いに出掛けている。また、家族と連絡を取り、現在抱えている不安や悩みなどの相談を受けるなどのアフターフォローに努め、利用契約終了後も関係性を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケア検討会では一人ひとりのその人らしい暮らしの実現のため、分析・検討を繰り返し行っている。日常会話やアンケート等で、利用者の暮らしに対する希望・要望を聞き取り、思いを言葉にできない利用者へも表情やサインを読み取り、本人本位の支援へ繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にアセスメントシート（センター方式）を記入していただき、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め、支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の暮らしや心身状態を記録する事で職員全体が現状を把握する事ができている。心身状態の変化がある時は観察シートを用いて細かい観察、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催されるケア検討会、利用者ごとに定期的に行われているサービス担当者会議、家族との密な連絡を通して利用者本位の現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの日々の様子やサービス内容、健康状態などを個別に記録し、職員間で情報共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりのニーズを常に検討し、他科受診や往診、マッサージ利用、訪問理容などを利用していただけるよう支援し、その時々ニーズに対応する事ができている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の交番、民生委員、町内会や地域の子ども達などの訪問があり、利用者と馴染みの関係を築くことで安全で楽しい暮らしができる環境にある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診が継続的に利用できている。また専門医を利用するときも利用者、家族の希望を重視し、適正で質の高い医療を受けることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	ホーム内に看護師を配置、協力医の看護師の訪問もあり、医療面、予防の視点での看護師の役割が機能している。介護面でも看護師の専門性が発揮され介護職との連携も良好。日常の健康管理も徹底している。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時の適切な対応が図られ、入院中職員が見舞いを兼ねて訪ね、家族や病院関係者から情報を得ながら早期退院ができるよう尽力している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	医療連携加算に基づき重度化看取り指針を定め、サービス開始時に本人・家族に説明、同意を得ている。医療ニーズが高まった時は、主治医により家族への説明があり、密な情報を共有できる体制が確立されている。		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	ホームに設置してあるAEDの取り扱いに関する研修を外部業者へ委託し、定期的実施している。また、急変時などの対応は適時看護師からの専門的指導も受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災、地震に備えて毎月防災訓練を各階で実施。年に2回消防署の協力を得て、昼・夜を想定して防災訓練を実施している。地域や家族の協力を得て、火災通報体制など地域力活用の体制も整っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供する上で大切にしなければならないプライバシー保護を確保するため、接遇委員会を中心に人格を尊重した接遇について意見を出し合っている。また、接遇委員会を定期的開催し、話し合われた内容を周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に思いを表現できる関係性を構築し、自己決定ができるよう働きかけている。自分の言葉で上手く伝えることができない方については、職員が本人のサインを感じ取り自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿った支援が行えるように入床、起床、食事、入浴のタイミングなど本人のペースを尊重して支援に当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴前に一緒に服を選んだり、入浴後に髪を整えたり、利用者と職員で身だしなみを行っている。また、出張理容や誕生月にはボランティアによるヘアメイクサービスを取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にアンケートを実施し食べたい物、好みの食材を把握して献立に取り入れている。季節を感じながら食事を楽しめるように旬の食材を提供できるよう心がけている。食材の下準備などお手伝いいただき、一緒に食事を楽しみ、下膳など片づけを手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	十分な栄養バランスが取れるよう個々に合った食事形態や水分形態に配慮している。食事量、水分量を毎日個別に記録し、個別支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し介助の必要な利用者には支援を行っている。歯科衛生士が在職しており、2ヶ月に1度、口腔チェックを行っている。異常の見られた利用者は歯科医と連携にて早急に治療。曜日を決め、義歯の洗浄・消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時に排泄パターンをアセスメントし、個々の排泄リズムを把握した上でトイレでの排泄を支援している。意思を伝えられない利用者はパターンを把握し、声かけを行い支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合った予防策（リハビリ体操、十分な水分摂取、食物繊維の多い食事など）を行い便秘予防に努めている（個別による緩下剤の服用）		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴日にそれぞれの体調や希望する時間に合わせて入浴支援を行っている。入浴を拒まれる方には、時間を空けてあらためて声掛けするなどの対処を行い、また無理強いはせず、清拭・足浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身の状態に合わせて午後の休息を取っていただける様、支援している。利用者一人ひとりの生活リズムに合わせたナイトケアを行い、安心して気持ちよく安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は身体の状態を観察しながら手渡して内服の確認を行っている。薬剤師との連携も図られておりいつでも確認できるよう健康記録に薬剤情報をファイルしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎に様々な行事を計画し、楽しく過ごして頂けるよう工夫している。個々の得意な事や好まれる事を把握し、レクリエーションに取り入れたりしている。また、買い物に出掛けたり楽しく気分転換を行える環境にある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	気候の良い日に近隣の公園への散歩や買い物、ドライブをはじめ、個別で行きたい所(デパート等)へ案内している。また、家族の協力を得て、お墓参りや自宅への外出・外食・外泊も行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で金銭を管理している。外出時など、自分で支払いが出来る環境作りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人へいつでも電話が出来るよう支援している。手紙やハガキを書かれる方からの投函の依頼を受け入れ、いつでも書けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を感じていただけるように季節の花を飾っており、テレビがいつでも見れるようになっている。また、利用者とスタッフが自然に会話ができる空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では季節を感じ取れるような飾り付けを一緒に行い、埃のない清潔な空間作りをしている。また、居心地よく過ごせるよう空調管理を徹底している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者本人が使い慣れた馴染みのある家具（寝具、タンス、仏壇、時計、テーブルなど）や好みのものを用いた設営を行い、不自由なく安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレやお風呂の場所は分かりやすく表示してある。自分の部屋が分かるように入口には表札を掛けている。可能な限り、自立した生活を送れるよう、環境作りがなされている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない